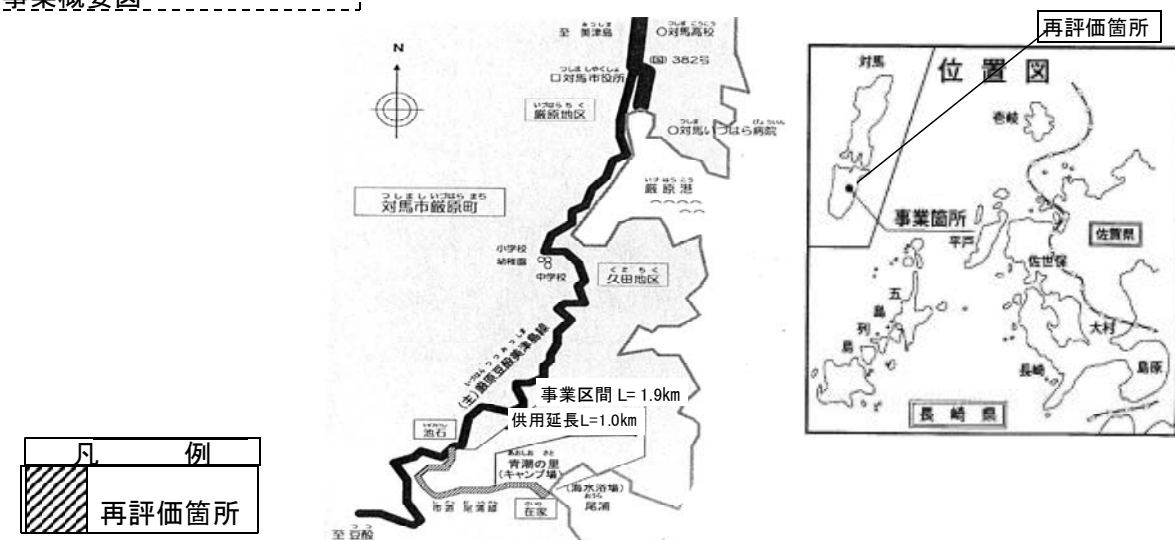


再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：九州地方整備局 地域道路課
 担当課長名： 春田 義信

| | | | | | | |
|--------------------------|---|---|---|--------------|--------|---------|
| 事業名 | おうら 市道尾浦線 | | 事業区分 | 地方道 | 事業主体 | 長崎県 対馬市 |
| 起終点 | 自：長崎県対馬市厳原町池石 至：長崎県対馬市厳原町在家 | | | 延長 | 1.9 km | |
| 事業概要 | 本路線は、主要地方道厳原豆酸美津島線接続から尾浦地区を対馬島中心部に結ぶ唯一の路線である。同地区には市営のキャンプ場、バンガロー等の施設を持つ青潮の里や当市でも有数の海水浴場があり、夏休み期間中には島内外から多くの人が集まり、交通がかなり混雑する。また、スクールバス運行や鮮魚保冷車通行があるが、現況は幅員が狭くカーブが多いため車両の離合に支障をきたし安全面も懸念されている。早急に整備をし交通の円滑化を図る。 | | | | | |
| H10年度事業化 | H 年度都市計画決定 (H 年度変更) | H 10 年度用地着手 | H 10 年度工事着手 | | | |
| 全体事業費 | 14 億円 | 事業進捗率 | 66% | 供用済延長 | 1.0 km | |
| 計画交通量 | 500 台/日 | | | | | |
| 費用対効果 分析結果 | B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 1.9 | 総費用 (残事業)/事業全体 3.9/15 億円 (事業費：3.9/15億円 維持管理費：0.07/0.21億円) | 総便益 (残事業)/事業全体 7.6/16 億円 (走行時間短縮便益：7.5/16億円 走行費用減少便益：0.14/0.38億円 交通事故減少便益：0.00/0.01億円) | 基準年 平成19年 | | |
| 感度分析の結果 | 残事業を対象 交通量変動：B/C=1.8 (交通量-10%) B/C=2.2 (交通量+10%) 事業費変動：B/C=1.8 (事業費+10%) B/C=2.2 (事業費-10%) | | | | | |
| 事業の効果等 | ・地域ネットワークの構築（対馬島中心部へのアクセス向上が見込まれる。20→14分） ・すれ違い困難な隘路を解消し、交通の円滑化を図る。 ・安全な教育環境の確保（安全なスクールバス運行が行える） ・観光及び地元産業への貢献（観光客の安全な通行及び鮮魚輸送の時間短縮） | | | | | |
| 関係する地元団体等の意見 | 尾浦線は、緊急輸送道路として重要な路線である。また、通学路でもあるため尾浦地区より早期の整備を要望されている。地元漁協からは現道改良による鮮魚の運搬時間の短縮を要望されている。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 | 海水浴場、キャンプ施設の整備により夏場は交通量が増え、整備の必要性が増大している。 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | 平成18年度末までの事業費ベースの進捗率は66%であり、用地面積ベースの進捗率は95%である。山間部の改良は進んでいるが、集落部の狭小な箇所改良が未着手である。 | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | 家屋移転に伴う交渉の難航や地元共同墓地移転に伴う代替地調整のため集落部の用地交渉に時間を要している。引き続き交渉を行い用地取得を進め、残事業について、平成24年度完成を目指す。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | 現地状況に合わせ、山側の切土量、谷側の構造物を抑えるなど、コスト縮減を図っている。 | | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性及び重要性は変わらないと考えられる。 | | | | | |
| 事業概要図 |  | | | | | |

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。